

## COLUMN

## 人口急増の影響

人口増加率が県の  
3倍以上の時代も

春日井市の人口は、市となった昭和18年が5万人台で、以後32年まで多少の増減はありますが、ほぼ5万人台が続きました。昭和33年に高蔵寺町と坂下町を合併して7万人台となり、8万人台となった36年から50年までは、土地区画整理事業や高蔵寺ニュータウンの開発（昭和43年入居開始）によって、毎年1万人前後の割合で人口増加が続きます。10万人を超したのは昭和38年、20万人を超したのは49年です。

昭和40年代から50年代にかけて、市の人口増加率は常に愛知県全体の増加率を上回っており、特に40年代は県の増加率の3倍以上の伸びを示しました。この期間中、県下では工業化や都市化が進展し、人口は確実に増えていたのですが、市の人口はそれをはる

かに上回る勢いで増加しました。

たとえば、昭和40年の人口増加率は、35年と比較すると愛知県が14・1%、市が51・9%、昭和50年は45年と比較すると愛知県が10・0%、市が30・8%でした。昭和50年代半ばからは人口増加率は徐々に緩やかになり、昭和55年は50年と比較すると愛知県が5・0%、市は13・7%でした。一時期の勢いは鈍化したとはいえ、市の人口は以後もゆっくりと増加を続け、平成17年には30万人を突破しました（住民基本台帳および外国人登録による）。

自己水源の確保と  
施設の整備

快適な都市生活を維持するため、洗面、炊事、入浴、トイレなど、水を必要とする機会はたくさんあります。また工場などにも多くの水が使われます。

水道事業は常に先々の人口を想定して、人々が快適な生活を送るために必要な給水量を見込み、事業の計画を立てています。しかし、その予想を上回るスピードで人口増加が続いたため、市は現在までに7期にわたる拡張事業を実施し、必要とする給水量の確保に努めてきました。

第4期拡張事業までは、地下約200メートルの深井戸を水源とし、各家庭へ給水するまでの浄水・送水・配水施設の整備が中心でした。

現在、市内には合計17か所の水源（深井戸）がありますが、その水源の内訳は町屋送水場7か所、知多配水場と廻間配水場各5か所です。この3つの施設はそれぞれ浄水施設を備えています。深井戸からの水量は、市の水道事業が供給する水量の約20%を占めています。